

病虫害発生予報 第1号(4月予報)

和歌山県
平成24年3月30日

<予報の概要>

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	やや少 やや少	野菜全般	灰色かび病 ミカンキロアザミウマ	並 並
タマネギ	灰色かび病 白色疫病 べと病	並 並 並	カンキツ	かいよう病 そうか病 ミカンハダニ	やや多 並 並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病	並 並	カキ	うどんこ病	並
キャベツ	コナガ	やや少	ウメ	かいよう病	並
			果樹全般	カメムシ類	多

気象予報

1か月予報(予報期間3月24日～4月23日 大阪管区气象台)

<予想される向こう1か月の天候>

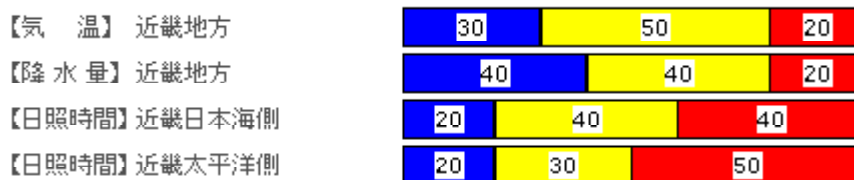
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並の確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (℃)	月降水量(平年値) (mm)
4月	和歌山 14.9	和歌山 100
	潮岬 15.7	潮岬 213

I. 水 稲

1. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市0.3頭、成虫率0%（平成7.6頭、成虫率28%）、紀の川市0.7頭、成虫率0%（平成8.9頭、成虫率28%）、かつらぎ町4.7頭、成虫率0%（平成1.7頭、成虫率26%）であった。

2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市0.7頭、成虫率0%（平成34.0頭、成虫率32%）、紀の川市0頭（平成3.1頭、成虫率17%）、かつらぎ町0.7頭、成虫率0%（平成9.2頭、成虫率32%）と平成に比べてやや少なかった。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成0%）と平成並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 下位葉に病斑を認めたら早めに薬剤防除を行う。

2. 白色疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は16%（平成16%）と平成並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に片寄りが見られることがあるので、発生が集中的にみられるところは特にていねいに薬剤散布を行う。

3. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での越年罹病株の発生ほ場率は3.2%（平成3.0%）と平成並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年度の発生ほ場では4月上旬から薬剤防除を行う。また現在未発生ほ場でも、周辺からの二次伝染が予想される場所では予防散布を行う。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 3月4半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は25%（平成23%）と平成並であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 雨が多いと多発するので薬剤防除は早めに行う。
 - ② 過湿ほ場では発生が多いので、排水対策に努める。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 3月4半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は0%（平成2.5%）と平成並であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生初期から薬剤防除を行う。

<キャベツ>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域では3月4半旬現在、発生を認めていない（平成発生ほ場率3.3%、平成発生密度0.0頭/10株）。
 - ② フェロモントラップによる3月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市1頭（平成17頭）、和歌山市2頭と平成に比べやや少ない。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 同系統の薬剤は連用しないこと。

<野菜全般>

1. 灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 3月4半旬現在、紀北地域の施設栽培キュウリでの発生ほ場率は0%であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 施設内では湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、耐性菌回避を考慮した薬剤のローテーションに努める（「防除指針」参照）。

2. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域のイチゴでは3月4半旬現在、発生を認めていない（平成発生ほ場率6.6%、平成発生密度0.0頭/10花）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 気温の上昇とともに4月上旬頃から密度が増加するので、発生初期に防

除する。多発ほ場では追加防除を行う。

Ⅲ．果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 春葉初発日 5月4～5半旬(平年並)
春葉発病量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)における春葉の越冬病斑量(発病葉率)は30.8%(平年17.4%)と平年より多く、夏秋梢にも越冬病斑がみられた。
- ② 巡回調査では、昨年10月の春葉の発病園率は23.4%(平年15.1%)と平年より多く、夏秋梢の発病もみられた。
- ③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除とともに防風施設の整備に努める。
- ② 発芽前の銅剤散布ができなかった園では、新梢伸長期に銅水和剤(炭酸カルシウム剤加用)を散布する。

2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 平年並
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、昨年8月の果実の発病園率は2.5%(平年3.1%)と平年並であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発園および前年多発園では、越冬病斑の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)における3月中旬の発生は平年並で、慣行防除園における発生は認められなかった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミカンハダニは殺ダニ剤に対する薬剤抵抗性の発達が問題となるため、冬期の95%マシン油乳剤による防除を徹底し、さらに夏期にも97%・98%マシン油乳剤を散布することが望ましい。

<カ キ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では、昨年10月の富有の発病葉率は24.4%(平年33.2%)と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫

黄剤を散布する。昨年多発した園では、この時期の防除を徹底する。

- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらってていねいに散布することが大切である。

<ウ メ>

1. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 昨年6月上旬の巡回調査における発生面積および発病果率はともにほぼ平年並であった。
 - ② 秋期の気象条件と併せて潜伏越冬病斑量は平年並だと考えられる。
 - ③ うめ研究所内無防除樹での潜伏越冬病斑は3月19日現在認められない。
 - ④ 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。
 - ② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

<果樹全般>

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県内全域における65地点の落葉中におけるチャバネアオカメムシ成虫の越冬量は多かった(1地点落葉50%当たり1.06頭、過去11カ年平均0.36頭、昨年0.02頭)。
 - ② 県南部における18地点での落葉中のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲地点数、捕獲頭数(本年7カ所、22頭、極端に越冬量が多かった平成8年を除く過去19カ年は平均3.4カ所、6.2頭、昨年0.0カ所、0.0頭)も平年に比べ多かった。
 - ③ 紀中、紀南地域では、越冬期中晩柑園でツヤアオカメムシが多く認められたことから、越冬密度は高いと推定される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ウメ・モモなどでは収穫前の越冬成虫の多飛来に注意する。
 - ② カメムシ類の最新の発生状況は、果樹試験場のホームページの果樹カメムシ情報を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ホームページ <農作物病虫害防除所コーナー>

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。